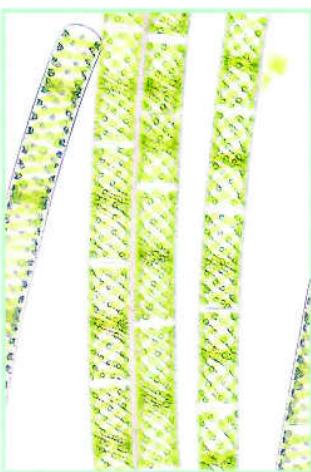


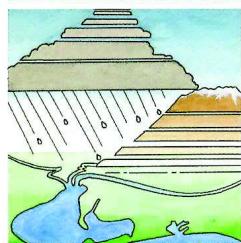
陸の水

No.1

日本陸水学会東海支部会
ニュースレター1998年5月

発行:日本陸水学会東海支部会
住所:〒464-8601名古屋市千種区不老町
名古屋大学大気水圏科学研究所内
Tel. 052-789-3489, Fax. 052-789-3436





日本陸水学会東海支部会へのおさそい

日本陸水学会東海地区会員各位

陸水に関心をお持ちの市民、教員、学生の皆様

1998年5月

1899年8月1日、田中阿歌麿子爵が山中湖に錐鉛を投じて測深したのが日本の陸水学のはじまりとなっています。来年1999年はその日本の陸水学研究が100年目を迎えます。陸水学会としても、これを機会に学問としての陸水学の一層の発展とともに、陸水に関する科学が広く一般市民・学生児童にも親しまれ、陸水自然環境について研究者、教育者、市民が共に考えられるようになることを目指しています。そのためには、会員の地域に根差した学会活動が大変重要と思われます。現在、陸水学会では全国7地区のうち、関東、中部（甲信越）および近畿の3地区で支部会活動が行な

われて、研究発表会や総会・親睦会や地域活動など活発な取り組みが行なわれています。このような状況の中で、中部地区の東海4県（愛知、岐阜、三重、静岡）に陸水学会員が約100名在籍していることから、東海支部会を設立することが学会活性化と陸水学普及の上で極めて大きな役割を果たすものと思われます。

東海地区在住の陸水学会会員有志と東海地区的研究・調査・教育機関に勤める有志で、以下のような活動を中心とする陸水学会東海支部会の設立の準備を進めています。

支部会の主な活動

- (1) 陸水学の普及活動。
陸水学の研究・教育担当者から研究内容を解りやすく紹介してもらう。
- (2) 会員相互の情報交流。
会員からはそれぞれの地域の陸水に関する情報を発信してもらう。
- (3) 支部総会および研究発表会
身近な温泉で1泊2日ぐらいの日程で、研究発表会を行なうとともに支部の活動報告や活動計画について討論する。

以上の活動を保証するためにニュースレターの発行を精力的に行なう。

この趣旨にご賛同の方々には、ふるって支部会に参加されるようお誘いするとともに、下記の設立総会の御案内を致します。（寺井久慈、名古屋大学大気水圏科学研究所）

日本陸水学会東海支部設立総会のお知らせ

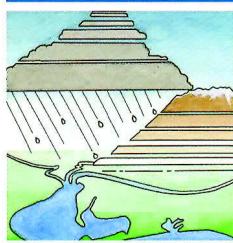
日時：1998年6月27日（土）15時より

場所：名古屋女子大学南4号館（地下鉄桜通り線瑞穂区役所下車5分）

記念講演：沖野外輝夫（信州大学教授、日本陸水学会会長）

議事：経過報告および趣旨説明、支部会規約、事業計画、予算案など

ささやかな懇親会を会場で催します：会費1000円



陸水学とは

八木明彦 名古屋女子大学大学院生活科学研究科

陸水学は、湖沼や河川の水質を調べ、なにがどのくらい存在するか、いろいろな場所に存在する水の成分・性質や生物の種類の違いなどを探求することから始まりました。やがて、興味を持つ研究者が一つの集まりを形成し、1931年6月に日本陸水学会が発足しました。総合科学としての陸水学は「閉じられた小宇宙としての湖沼」を総合的に究明することから始まったと言えます。

湖沼学はLimnologyという言葉ですが、世界では1922年に発足した国際理論応用陸水学会議(SIL)が、Limnologyを拡大解釈して、内陸の水域全般を扱うという性格をもっていました。そこで、日本陸水学会の創立のメンバーで、「陸水」という名を付け、陸水学会と呼ぶことになったのです。

陸水学の研究内容も、1970年代に環境問題が重要視され、人間生存をテーマとした研究が進みました。国際的にみれば、SILは理論応用という言葉が入り、問題の基本的過程に関するしっかりと基礎的研究が大事で、その上にたって現実の問題に正しく対応することが求められています。

陸水学の研究には、多くの学問分野の研究者が参加しています。例えば、物理学者は水や粒子の動きを、分類学者は生物種の区別を、生態学者は各種生物の分布、食性、発育速度などを、地球化学者は各種化学成分の種類や量の時間的・空間的变化について興味をもって調べます。陸水学はそれらの研究を結びつけて、対象とする「陸水」の「場」としての特徴を、水と物質の循環から解明することにより把握しようとする総合科学なのです。

今、新たに地球環境が問題とされるようになってきましたが、総合科学としての陸水学の手法は地球

という「場」の特徴を把握して地球環境問題を解決する上でも重要な役割を果たすことでしょう。この様な時代の要請に応えるべく、日本陸水学会では河川、湖沼、沼沢、湿原、貯水池、地下水、河口域・干潟などのあらゆる水域を対象とし、地球化学、物理学、生物学・生態学および環境科学などの側面から総合的な研究を推進しています。

日本陸水学会東海支部は、東海地方在住の陸水学研究者、「東海地方の陸水」について興味と関心を持つ調査・研究・教育機関在籍者および一般市民の参加を得て、陸水学をより広く親しまれる科学として普及・発展させることを目指します。このために「親しみやすい支部会」をモットーに、

- グローバルな地球環境問題を踏まえて東海地域の陸水環境を考える
 - 自然・社会・人文科学および市民生活の立場から陸水への関心を広める
 - 地域に根ざした陸水の調査、研究活動を通して、陸水に関心を持ち活動する人々の輪を広げる
- ことに取り組んでいくつもりです。





日本陸水学会東海支部ニュースレター

「陸の水」の編集について

日本陸水学会東海支部の設立にあたり、川や湖に関心を持つ東海地方在住の方々に、私たちの活動を知っていただくとともに、陸水学の普及を目的として、機関誌(ニュースレター)を作ることになりました。

ニュースレターの名前は、「陸の水」としました。あまり工夫の跡が見られないかもしれません、これには若干のいきさつがあります。東海支部設立に向けての活動と相前後して、栄のNHK文化センターから設立準備会の世話人のところに、陸水に関するテーマで講座を開いてほしいとの依頼がありました。その講座名を「陸の水—その環境と生き物」とした関係で、これをニュースレターの名前にも使ったというわけです。

ロゴマークは、世話人の紅一点、石田典子さんが引き受けてくださいました(実際は、ご主人の手によるものだそうですが)。見ていただいてすぐ(?)わかるように、東海地方を示す伊勢湾・三河湾、木曽三川、浜名湖に、陸水の源である雨をイラストにしたもの。陸水学会東海支部のマークとして、とてもふさわしいものが出来たのではないかと思っています。

創刊第1号では、発刊の宣伝を含め、東海支部会へのお誘いと設立総会のお知らせを中心に取りあげています。第2号は、東海支部設立総会時の発行を目指しています。

次号以降の内容としては、陸水学の研究・調査の紹介を中心として、陸水学の広報を主な目的にしています。また、数号にわたり、NHK文化センター講座内容をシリーズとしてご紹介したいと思います。一般の方にもわかりやすい表現となるように努力しますが、研究紹介などでは、専門用語もでてくると

思います。これらについては、その都度、「用語解説」の欄を設けたいと思っています。

第1号は、東海支部会設立の世話人一同が張り切って、カラー印刷となりましたが、2号以降はモノクロになり、コピーでの配布になると思います。派手さはなくなりますが、その分、内容の濃さで応えて行きたいと思います。

読者のみなさんには、地域の水情報など様々な情報を寄せくださいとともに、こんなテーマを取りあげてほしいとか、あの人の仕事の話が聞きたいとかのご要望も是非お寄せください。よろしくお願ひします。

(吉岡崇仁、名大・大気水圏科学研究所)



透明度板：セッキー円板とも呼び、直径30cmの白色の板におもりとロープを付けたもの。水中に沈めて、見えなくなった深さを透明度という。富栄養湖では、透明度が1mにも満たないことがあり、一方、きれいな湖として有名な摩周湖(貧栄養湖)では、41.6mという記録がある。